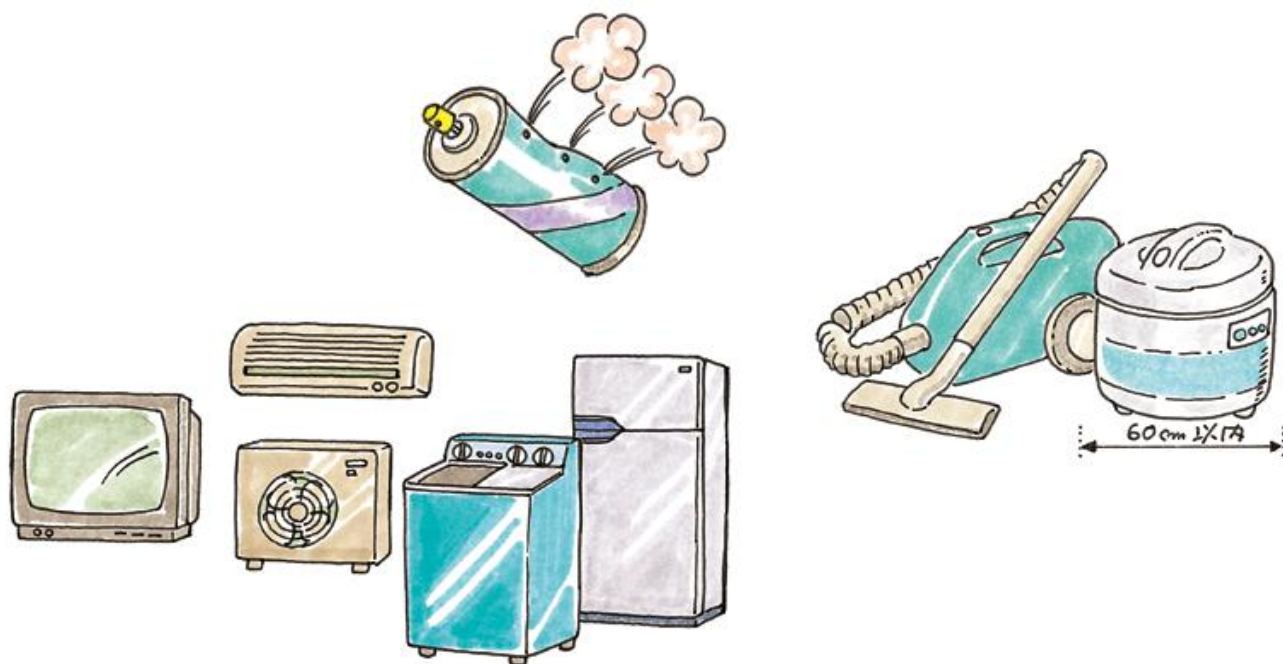


49期 （令和6年度 R5.12月～R6.11月）

環境活動レポート



株式会社サンクリーン

発行年月日 令和7年3月25日

～ 目 次 ～

挨拶・環境経営方針	・・・・・・・・	1
事業概要&認証登録範囲	・・・・・・・・	2
実施体制	・・・・・・・・	3
環境経営目標	・・・・・・・・	4
環境経営計画	・・・・・・・・	5
環境目標の実績	・・・・・・・・	6
環境活動計画の取組結果とその評価、 次年度以降の取組内容	・・・・・・・・	7
環境関連法等の遵守状況の確認及び評価 並びに違反、訴訟等の有無 代表者による全体評価と見直し結果	・・・・・・・・	8
情報公開事項	・・・・	9～11

1 環境経営方針

【基本理念】

株式会社サンクリーンは、廃棄物を収集運搬し適正に処理することにより、地域ひいては地球全体の美しい環境を守ることに貢献する。

【行動指針】

1. 廃棄物の削減・再利用・再資源化への寄与
お客様による廃棄物の削減・再利用・再資源化へ協力することにより、お客様の環境保全活動に寄与する。
1. エコドライブの推進
収集・運搬車両のエコドライブを推進し、省エネと排気ガスの抑制に取り組む。
事業所・作業場の省エネ、節水、廃棄物の削減に取り組む
1. グリーン購入の推進
オフィス用品その他の備品等の購入において、可能な限り、グリーン購入を推進する。
1. 法令の遵守
廃棄物処理法その他の法令を遵守する。
1. 全従業員の参加
環境目標及び施策を活動計画の中で明らかにし、全従業員が自らの職務の中で積極的に活動に参加できるようにする。
1. 代表者のコミットメント
代表者は、環境保全に対する自らのコミットメントを明確に示すことにより当会社の環境保全活動の推進に努めると共に、取組状況を把握し、必要に応じて活動計画を見直すことにより、活動が継続的に行われるように努める。
1. 環境経営方針の周知徹底
環境経営方針はすべての従業員に周知徹底すると共に、社外の求めに応じて開示する。

令和6年3月31日

株式会社サンクリーン
代表取締役社長 藤井 達司

◆事業概要 & 認証登録範囲

1 名称及び代表者名

株式会社サンクリーン

代表取締役社長 藤井 達司

2 所在地

岩手県花巻市太田第5地割74番地

TEL: 0198-28-2245

3 環境管理責任者

環境管理責任者 戸来 章

4 事業活動の内容

一般廃棄物収集運搬・産業廃棄物収集運搬処理業

／廃プラスチック中間処理(処分)業

5 事業規模 令和6年度実績

資本金 10百万円

項目	46期	47期	48期	49期
	R2.12.1-R3.11.30	R3.12.1-R4.11.30	R4.12.1-R5.11.31	R5.12.1-R6.11.31
	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
売上高	209,411,303円	217,858,551円	223,583,103円	236,899,647円
従業員	29名	30名	30名	30.5名
延べ床面積	14,665m ²	14,665m ²	14,665m ²	14,665m ²
収集運搬車両	16台	17台	15台	17台

※平ボディ、アームロールを含む

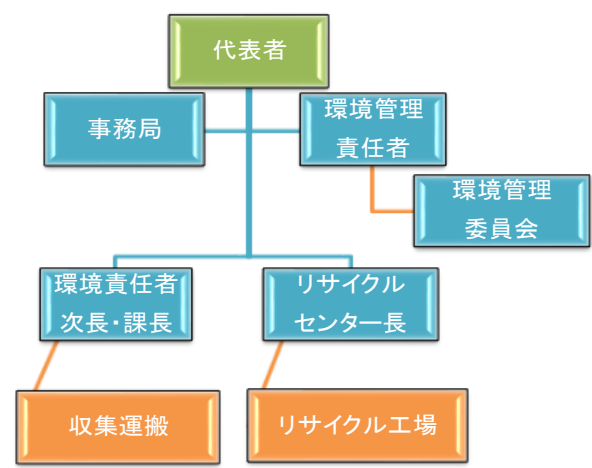
6 認証登録範囲

全サイト・全組織・全事業活動が認証登録範囲

7 営業範囲

主に、花巻市内

(1) 組織図



(2)環境経営システム 役割・責任・権限表

	役割・責任・権限
代表者 (代表取締役)	・環境経営に関する統括責任。
	・環境経営システムの実施に必要な人、設備、費用、時間、技能、技術者を準備。
	・環境管理責任者を任命。
	・代表者による全体の評価と見直しを実施。
	・環境方針の策定
環境管理委員会	・委員長は、事務局の提案を受けて、環境管理責任者が召集する。
	・環境管理責任者の提案を審議し、決定事項を環境責任者は各部門で実施する。
	・内部監査の代りに、計画の進捗状況・ガイドラインへの適合状況を審議し、不適合・不具合が有る場合は代表者、環境管理責任者に是正を勧告する。
環境管理責任者	・環境経営システムの構築、実施、管理。
	・環境活動の取組結果を代表者及び環境管理委員会へ報告。
	・代表者への取り組み状況の報告
環境事務局	・環境管理責任者の補佐。(環境経営システムの構築、実施、管理)
	・環境関連の外部コミュニケーションの窓口。
	・環境活動レポートの作成、公開(事務所に備付け)
	・取組データの集計、取りまとめ及び文書記録類の管理。
環境責任者	担当部門について環境経営システムを実施し、維持する。
	・省資源、省エネ、節水等の奨励・実施・確認・是正。
	・従業員に対する教育訓練の実施
全社員	・環境方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚し、能力向上に努める。
	・決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加。

5 環境経営目標

1 主な環境負荷の実績

表1、主な環境負荷等の実績

項目	単位	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
二酸化炭素排出量	kg-CO ₂ /年	266,538	258,093	260,259	263,939
購入電力使用量	kwh	11,656	9,424	11,560	11,839
廃棄物排出量	t/年	4.1030	3.5000	2.8560	4.0709
産業廃棄物排出量	t/年	3.867	3.268	2.6420	3.8600
一般廃棄物排出量	t/年	0.236	0.232	0.2140	0.2109
総排水量(水資源投入量)	m ³ /年	72	62	59	57

購入電力の二酸化炭素排出係数は環境省報道発表(2019年度)の東北電力実排出係数 0.519kg-CO₂/kwhを使用。

2 環境目標の設定

当社では、平成30年度を基準年度として中期及び単年度の環境目標を、それぞれ表2のとおり設定し、環境活動に取り組んでおります。

コア指標	項目	責任部門 責任者	単位	基準年 (R3年度)	年度毎目標 (基準年度に対する削減(増加)率の目標値)		
					R4年度	R5年度	R6年度
二酸化炭素 排出量	電力の二酸化炭素排出量の削減	事務所	kg-CO ₂ /年	6.049	5989	5,928	5,868.00
	ガソリン・軽油等の二酸化炭素の削減	部長	kg-CO ₂ /年	258.508	255923	253,338	250,753.00
	灯油、LPG等の二酸化炭素の削減	事務所	kg-CO ₂ /年	1.979	1959	1,939	1,920.00
廃棄物 排出量	一般廃棄物	事務所	kg/年	236	234	231.00	229.00
排水量	節水	課長	m ³ /年	72	72	72	72.00
環境配慮製品 サービス	受託した産業廃棄物のリサイクル率維持	全員	%	100	100	100	100
	電子manifestの普及	事務所	件	6	7	8	9
	ペットボトル、缶のリサイクル率維持	部長	%	100	100	100	100
	環境苦情	事務所	件	0	0	0	0
社員教育	EA21取り組み教育	牛崎	回数	1	2	2	2
	緊急事態訓練		回数	1	1	1	1
	資質向上教育		回数	1	1	1	1
地域貢献	ボランティア活動	松館	人	1	1	1	1
	地域清掃等		回数	0	1	1	1

表3 主な環境経営計画の内容

項目		取組内容
二酸化炭素排出量の抑制	照明	昼休みなど、部屋を使用していない時は、照明消灯を確実に実行する。
		社員用トイレ、倉庫等不必要な時は、消灯している。
		事務室の部分照明を実行する。
	冷暖房	冷暖房の温度(冷房28℃、暖房20℃)を順守する。
		エアコンのフィルターの清掃を定期的(最低、毎月1回)に行う。
		空調を必要な区域・時間帯に限定する。
		使用していない部屋は、空調を停止している。
		ドアの開け放しはしない。
	節電	残業の時は、必要な個所のみ点灯し、業務に必要な箇所は消灯する。
		昼休みなど、休憩時、不必要な箇所は消灯する。パソコンの電源は切る。
		退社時は、OA機器の待機電源は切る。
		パソコン等のOA機器や照明器具などの省エネルギー型への切り替えに取り組んでいる。
	車両 その他	車両のアイドリングストップを実践する。
		急発進・急加速はしない。
		空ぶかしはしない。
		冷暖房の控えめ使用
		タイヤの空気圧は、適正値を保つよう定期的に調整する。
		排気ガス、騒音のレベルを抑えるため、適正な車両整備を行う。
		最大積載量に見合った輸送単位の設定を行う。
廃棄物の排出抑制	一般廃棄物	ハイブリッド車や低公害車への切り替えに取り組んでいる。
		灯油・LPG等の二酸化炭素の削減
		冷暖房の温度(冷房28℃、暖房20℃)を順守する。冬場は帰宅時間を意識し余熱を活用するようにする。
		書類の内容やレイアウトを見直し、枚数を少なくする。
		会議用資料の簡素化を図る。
		同じ内容の資料や書類の写しは1冊にまとめ、複数人で利用する
		帳簿見直しによる印刷物の削減
		両面印刷、コピーを徹底する。
		コピーをする前に、コピー機の設定の確認を行い、ミスコピーを減らす。
		コピーは最小限の枚数を行い、余分なコピーは行わない。
		使用済み用紙(片面コピー)の裏面を利用する。
		使用済の封筒を再利用する。
		個人情報等を含んだ書類はシュレッダー処理を行うが、シュレッダーする前に分別を行う。
		発生した紙ごみは、個人の手元で分別し、たまったらフロアの分別ボックスに投入する。
		使用済コピー用紙、段ボール、雑誌、新聞紙等は、所定の場所に分別保管する。
		分別した紙ごみは、再生資源業者に引き渡し、リサイクルする。
		古紙リサイクルを徹底する。
		電子メール等を利用し紙を削減する
		パソコンで社内ネットワークを構築し、文書を共有する
		文書の共有により、不要な印刷物を削減する。
	産業廃棄物	商品や郵便や宅配便等の包装は、できるだけ簡易なものを選ぶ
		不要なダイレクトメールは「受取拒否」する
		オフィス用紙には、できるだけ再生紙を購入し、使用する
		紙コップなど使い捨て製品の使用や購入を抑える。
		リターナル容器に入った製品を優先的に購入・使用する。
		ゴミ箱の中に紙などを混入させないなど、廃棄物の分別を徹底する。
		紙・金属缶等は、所定の保管容器に確実に分別する。
	資源として有価販売	コピー機のトナーカートリッジの回収、リサイクルを推進する。
		廃油、廃プラスチック、金属くず、ガラスくずなどは所定の置場に分別保管する。
		分別を徹底し有価物化する。
		一般ゴミが混載しないよう定期的にチェックする。
節水・排水	用水・排水	飛散、漏洩、悪臭、印象など、保管の状態に問題がないよう適正な管理を行う。
		産業廃棄物管理票(マニフェスト)をもとに廃棄物の適正な処理を行う。
		廃棄物の中間処理場などを定期的に、直接、チェックする。
		ペットボトルの収集、処理、件数の増加
		洗車時の無駄水の防止(ストップノズル取付)に努める。
		蛇口の水漏れがないか確認する。
		水道水を出しすぎない。
グリーン購入	グリーン購入	水道を流しながら使用しない。
		節水の表示を行う。
		事故防止や汚染防止のためにウエス、吸着マットなどは、適切に保管する。
		事務用品の購入
		消耗品の購入

当社では、環境目標の達成状況の確認・評価を行いました。

今回は、弊社会計期48期令和5年12月から令和6年11月までの実績についての評価結果

表4 当該年度の環境目標の達成状況等

コア指標	項目	責任部門 責任者	単位	基準年 (R3年度)	令和6年度			環境目標の 達成状況
					削減(増加) 率(%)	目標値	実績値	
二酸化炭素 排出量	電力の二酸化炭素排出量の削減	事務所	kg-CO ₂ /年	6049.00	1%削減	5,868.00	6,144.44	未達
	ガソリン・軽油等の二酸化炭素の削減	部長	kg-CO ₂ /年	258,508.00	1%削減	250,753.00	256,427.58	未達
	灯油、LPG等の二酸化炭素の削減	事務所	kg-CO ₂ /年	1979.00	1%削減	1,920.00	1,366.68	達成
廃棄物排出量	一般廃棄物	事務所	kg/年	236.00	1%削減	229.00	210.85	達成
排水量	節水	課長	m ³ /年	72.0	1%削減	72.0	57.0	達成
環境配慮製品 サービス	受託した産業廃棄物のリサイクル率維持	全員	%	100	100%維持	100	100	達成
	電子マニフェストの普及	事務所	件	6	1件増	9	10	達成
	ペットボトル、缶のリサイクル率維持	部長	%	100	100%維持	100	100	達成
	環境苦情	事務所	件	0		0	0	達成
社員教育	EA21取り組み教育	牛崎	回数	1	年2回程度	2	1	未達
	緊急事態訓練		回数	1	年1回	1	1	達成
	資質向上教育		回数	1	年1回	1	1	達成
地域貢献	ボランティア活動	松舘	人	1	年1回以上	1	2	達成
	地域清掃等		回数	0	年1回以上	1	1	達成

環境目標の達成状況等

1、二酸化炭素排出量

(1)電力の二酸化炭素排出量の削減

屋休み消灯、暖房時間の短縮、暖房便座のふたを閉めるなど継続実行しているが、夕刻(夕暮れ)時の作業の安全作業を最優先に考え、構内に屋外街灯3基及び倉庫内の故障していた照明器具をLED化した事により、目標数値が未達となったと考える。また、解体分別作業の作業時間が昨年、一昨年に比べ多くなっていることも起因している。

(2)ガソリン・軽油等の二酸化炭素の削減

業務車両の低燃費車両の導入を進めているが、業務拡張により、総走行距離が大きく対前年を上回る結果となった。また、ガソリン車(営業車)の導入によりその石油燃料の利用が対前年・目標値を上回る結果となった。従業員には引き続き、アイドリングストップ・急発進急停車などセーフティドライブを継続実施するよう意識改革を実施している。

(3)灯油・LPG等の二酸化炭素の削減

設定温度を下げ、タイマー等で使用時間を短くしているので効果はある。

2、一般廃棄物

雑紙のリサイクルの厳格化がなされている。

3、産業廃棄物

サンククリーン由来の産業廃棄物の排出は0を維持している。

産廃のペットボトルについてくるビニール袋(廃プラスチック)、残りジュース(廃酸)は産廃として適正に処理されている。

4、総排水量(節水)

継続実施

5、環境配慮製品・サービス

(1)受託した産業廃棄物のリサイクル率

100%維持

(2)電子マニフェスト普及

継続実施

(3)ペットボトル、缶のリサイクル量の向上

100%維持

1. 取組結果の評価

表5 主な環境活動計画の内容と取組結果

項目		実施状況の評価	達成度
二酸化炭素排出量の抑制	照明	消灯……等の取組は、定着。	○
	冷房	26度に温度を設定。	○
	暖房	18度に温度を設定。	○
	節電	昼休みの消灯、暖房便座のふたを閉める。	○
	車両その他	エコドライブ推進、暖気運転の時間を短く。	○
排出物抑制の	一般廃棄物	一般廃棄物とリサイクル可能なものを分別する。	○
	産業廃棄物	産業廃棄物管理票(マニフェスト)ををもとに廃棄物の適正な処理をする。	○
排節水	用水・排水	節水表示。	○
グリーン購入		事務用品、消耗品購入の際は、グリーンマークのついているものを購入。	○

○:評価できる、△:まずまず評価できる、×:評価できない

2. 次年度の取組内容

(1) 二酸化炭素排出量の削減

エコドライブ、屋内外の節電 推進に努め二酸化炭素排出削減に取り組む

ドライバーからの提案や収集経路を見直しを実施

(2) 廃棄物の排出削減

持続した活動計画の実行

(3) 節水(排水対策)

持続した活動計画の実行

(4) グリーン購入

消耗品、事務用品等エコマークを確認し、環境配慮製品を優先購入する

9 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価並びに違反、訴訟等の有無

当社が法的義務を受ける廃棄物処理法など、環境関連法規について遵守状況をチェックしたところ一切の違反はありませんでした。また、過去3年間、関係当局からの違反等の指摘、住民等からの苦情、訴訟等について、問題が有りませんでした。

10 代表者による全体評価と見直し・指示の結果

見直し項目	評価	改善及び指示
1 環境方針	概ね方針通り実行できている	全従業員の参加 全従業員が積極的に活動に参加できるようにする為朝礼での環境教育の場を増やす
2 環境目標	事業の拡張と労働環境整備により、対前年実績、目標共に未達が見られるが、次年度以降の削減目標を適正に精査して設定する。	二酸化炭素排出量の削減、グリーン購入の推進に力を入れる。
3 環境活動計画及び環境経営システム	エコドライブ、無駄なアイドリングストップの推進を継続して進めているが、事業の拡張により走行距離が大きく伸びたために燃料の使用量が増えている。	環境教育の一環で社内研修を積極的に行い、環境対策を社内全体で共有し実践する。
4 その他（ ）		
5 全体評価	従業員の環境配慮意識は向上していると感じている、計測した教育研修を行うが安全安心作業のためには引き続き、場内の整備(屋外街灯や作業場の冷暖房設備の導入など)が必要と考える。また、低燃費車両の導入を積極的に進めていくが、事業の拡張による燃料消費量の増加は否めない。 適正な目標設定を審査員と共に行うこととしたい。	

事業所名		株式会社サンクリーン						
代表者名		代表取締役社長 藤井 達司						
所在地		岩手県花巻市太田 5－7 4						
環境管理責任者		戸来 章						
エコアクション21担当者		牛崎 貴正 ・ 松館 優子						
連絡先	電話	0198-28-2245		FAX	0198-28-2248			
	E-mail	sun-clean@echna.ne.jp						
	URL	http://www.echna.ne.jp/~sunclean/						
事業活動の内容		一般廃棄物、産業廃棄物収集運搬 および 産業廃棄物中間処理						
事業計画の概要		産業廃棄物収集運搬業、中間処理業を通じて資源循環型社会構築を目的とし、低炭素社会構築に貢献する。						
事業の範囲		営業範囲：岩手県花巻市						
事業の規模	事業年度	R6年度		R5年度		R4年度	R3年度	
	売上高（百万円）	237		224		217	209	
	収集運搬量 t	8,060		10,804		8,318	9,820	
	処分量 t	66.26		75.5		84	75.2	
	従業員（名）	31.5		30		30	29	
法人設立年月日		S50年12月16日		資本金	10 百万円			
許可の内容	許可名/許可番号		年月日		事業区分、廃棄物の種類			
	花巻地区 一般廃棄物処理業		許可	第12-5号		事業系ごみ・家庭系ごみ 収集運搬（保管、積替え含む） 花巻市の処理計画区域		
			有効	R6.4.1～R8.3.31				
	盛岡紫波地区 一般廃棄物処理業		許可	指令第41号		廃家電のみ（運搬）		
			有効	R6.4.1～R8.3.31				
	産業廃棄物収集運搬業		許可	00312036878		（水銀使用製品産業廃棄物を含む）汚泥・廃油・廃酸・廃プラスチック類・紙くず・木くず・繊維くず・動植物性残さ・金属くず・ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず・がれき類(保管、積み替え含む)		
			有効	R3.1.23～R8.1.22				
	産業廃棄物処分量		許可	00322036878		中間処理（圧縮減容処理） 廃プラスチック類・金属くず		
			有効	R4.11.16～R9.11.15				
設備	設備名		能力・産廃の種類		台数			
	圧縮減容施設		廃プラスチック 0.8 t／日		1	設備名	能力・産廃の種類	台数
						塵芥車	積載量4150kg	2
	塵芥車		積載量2000kg	1	アームロール車	積載量3600kg	1	
	塵芥車		積載量2400kg	1	平ボディー	積載量1650kg	1	
	塵芥車		積載量3500kg	1	コンテナ		18	
	塵芥車		積載量3700kg	2	フォークリフト		1	
	塵芥車		積載量3800kg	2	磁選別機		1	
	塵芥車		積載量4050kg	2	雪掻き機		2	
	塵芥車		積載量4250kg	2				
	塵芥車		積載量4300kg	1				

廃棄物の種類	保管面積（㎡）	保管体積（㎡ ³ ）	保管重量（t）	備考
廃プラスチック①	14	9	3.15	屋内保管 選別前保管
廃プラスチック②	12	11.37	3.97	屋内保管 選別前保管
廃プラスチック③	4	2.25	0.78	屋内保管 選別前保管
木くず	2	0.41	0.22	屋内保管 選別前保管
金属くず①	7	2.83	3.19	屋内保管 選別前保管
金属くず②	6	2.33	2.63	屋内保管 選別前保管
ガラスくず、コンクリートくず （工作物の新築、改築又は除去に伴って生じたものを除く。） 及び陶磁器くず （ガラスくずに限る。）①	3	0.84	0.84	屋内保管
ガラスくず、コンクリートくず （工作物の新築、改築又は除去に伴って生じたものを除く。） 及び陶磁器くず （ガラスくずに限る。）②	3	0.84	0.84	屋内保管
ガラスくず、コンクリートくず （工作物の新築、改築又は除去に伴って生じたものを除く。） 及び陶磁器くず （ガラスくずに限る。）	2	0.41	0.41	屋内保管 積替保管場
廃プラスチック類、金属くず、 ガラスくず、コンクリートくず 及び陶磁器くずの混合物 （廃蛍光管に限る。） 水銀使用製品産業廃棄物を含む	8.5	1.54	231(kg)	屋内保管 積替保管場
廃プラスチック類、金属くず、 ガラスくず、コンクリートくず 及び陶磁器くずの混合物 （体温計血圧計に限る。） 水銀使用製品産業廃棄物を含む	1	0.012	4.62(kg)	屋内保管 積替保管場
汚泥、金属くずの混合物 （廃乾電池に限る（水銀電池を含む。）） 水銀使用製品産業廃棄物を含む	1	0.046	46.2（kg）	屋内保管 積替保管場

49期 令和6年度(R5.12～R6.11)

収集運搬

一般廃棄物		収集運搬量(トン)
事業系	可燃ごみ	2,696.52
	不燃ごみ	34.93
	資源ごみ(ペットボトル)	0.30
	資源ごみ(食品リサイクル)	54.81
	その他:(発泡)	14.31
	その他:(牛乳パック)	7.04
	その他:(びん)	5.51
事業系一般廃棄物収集運搬量 計		2,813.42
家庭系	可燃ごみ	4,263.81
	不燃ごみ	271.14
	資源ごみ(ビン)	32.72
	資源ごみ(ペット)	83.89
	その他:その他のプラスチック	220,120.00
	その他:衣類	24.40
家庭系一般廃棄物収集運搬量 計		224,795.96
一般廃棄物収集運搬量 合計		227,609.38
産業廃棄物		収集運搬量(トン)
廃プラスチック		168.222
木くず		14.235
蛍光管・乾電池		3.072
ガラスコンクリート・陶磁器		8.277
廃プラ・金属くず混合		3.628
金属くず		5.353
びん		65.400
廃酸		2.680
汚泥		0.340
産業廃棄物収集運搬量 合計		271.207
廃棄物収集運搬量(一般＋産廃) 総合計		227,880.59

処分(中間処理)

中間処理		廃棄物の種類	処理方法等	処理量
		ペットボトル	圧縮減容	66.26
うち 再資源化等	ペットボトル			66.26
	小計			66.26
合計				66.26

中間処理後の産業廃棄物(再資源化)

中間処理後		廃棄物の種類	処理方法等	処分量等
	中間処理 (再資源化)	ペットボトル(廃プラ)	PETフレーク原料	66.26
		小計		66.26
		合計		